

卒後教育としての臨床ブラッシュアップコースの変遷 —理学療法学科の15年間の取り組み—

布施 陽子¹, 佐藤 俊彦¹, 岡村 俊¹, 西村 沙紀子², 上田 泰久¹, 福井 勉^{1,2}

¹文京学院大学 保健医療技術学部 理学療法学科

²文京学院大学 スポーツマネジメント研究所

要旨

2006年度より理学療法学科では「臨床ブラッシュアップコース」が企画され、実施方法を変更しながら15年間継続してきた。2019年度の講習会では、受講生を対象に受講生/講習会に関するアンケート調査を実施した。受講生に関するアンケート調査の結果より、卒後教育を見据えた大学連携講座としての役目を担い、かつ実習施設と大学との繋がりを持てる場であることが考えられた。講習会に関するアンケート調査の結果では、概ね満足度の高い講習会が開催できたと考えられる。しかし、2019年度は1日で1つの専門分野の講演が凝縮して展開されたことから、一部の受講生からは受講時間が短いといった意見もあり、開催目的を明確にした上で実施方法を検討していく必要があると考える。また、2020年度以降、対面での講習会が開催できていないことから、今後は、コロナ禍で導入されてきている新しい教育手法も取り入れつつ、より満足度の高い講習会を企画していきたい。

キーワード

臨床ブラッシュアップコース, 理学療法学科, 卒後教育

【はじめに】

2006年度に文京学院大学保健医療技術学部はふじみ野キャンパスに開設された。開設以来、理学療法学科では本郷キャンパスにある生涯学習センターの協力を得て、卒後教育を見据えた大学連携講座として理学療法士・作業療法士などの医療専門職に対する「臨床ブラッシュアップコース」を毎年開催してきた。理学療法学科では卒業生のみを対象とした「フォローアップコース」とともに、2010年度より理学療法学科の1期生が、この「臨床ブラッシュアップコース」に理学療法士として参加しはじめ、卒後教育の一環の役割を担ってきた。この両コースは、臨床現場での知識や技術習得をサポートする目的で実施してきた。2020年度は新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の感染拡大の影響もあり残念ながら中止となったが、卒業生や臨床の理学療法士から好評を得ており15年間継続した教育事業になる。本稿では、この15年間を振り返り、まず「臨床ブラッシュアップコース」の変遷について述べ、さらにCOVID-19影響前の2019年度に実施した受講生に対するアンケート調査の結果を報告し、最後に今後の卒後教育の展望について述べる。

【臨床ブラッシュアップコースの変遷】

2006年度より卒後教育を見据えた大学連携講座として「臨床ブラッシュアップコース」が企画され、1年コース（1年間で複数の講師から学ぶ講習会）やウィークエンドコース（2日間で1名の講師から学ぶ講習会）など多くの講習会が開催されてきた。この中でも1年コースは同一受講生が通年で学べることから、申込者が定員をオーバーする大変人気の高いコースである。1年コースは、理学療法士を取り巻く環境の変化に伴い、講習会の実施方法（日数・時間数など）を変更しながら開催してきた（表1）。この15年間で延べ600名以上の理学療法士・作業療法士などの医療専門職を受講生として受け入れてきた。また15年間で、臨床ブラッシュアップコースに関わった講師および受講生で分担執筆した書籍が2冊刊行された。1冊目は、2012年6月に「ブラッシュアップ理学療法」¹⁾が三輪書店より刊行された（図1a）。2冊目は、2017年10月に「新ブラッシュアップ理学療法」²⁾がヒューマン・プレスより刊行された（図1b）。2冊とも講師および受講生の総勢88名が「新たな技術を創造する」というコンセプトで、臨床で実践している知識と技術をまとめたアイデア満載の斬新な書籍となっている。このように理学療法学科では講習会の開催だ

表1 臨床ブラッシュアップコース 1年コース 15年間の変遷

	コース名	日数	時間数	講師数		受講生(定員)
				学内講師	学外講師	
2006年度	1年コース	18日間	90時間	3名	6名	20名
2007年度	1年コース	18日間	90時間	4名	5名	20名
2008年度	1年コース	20日間	100時間	5名	5名	20名
2009年度	1年コース	22日間	110時間	6名	6名	24名
2010年度	1年コースA	14日間	70時間	2名	4名	22名
	1年コースB	14日間	70時間	2名	4名	22名
	1年コースC	14日間	70時間	2名	4名	22名
	1年コースD	14日間	70時間	1名	5名	22名
2011年度	1年コース	12日間	60時間	4名	2名	26名
2012年度	1年コースA	12日間	60時間	5名	3名	26名
	1年コースB	12日間	60時間	4名	3名	26名
2013年度	1年コースA	12日間	60時間	3名	3名	26名
	1年コースB	12日間	60時間	2名	4名	26名
2014年度	1年コースA	12日間	60時間	1名	5名	26名
	1年コースB	12日間	60時間	1名	5名	26名
	1年コースC	12日間	60時間	2名	4名	26名
2015年度	臨床応用コース	5日間	25時間	4名	1名	26名
	臨床基礎コース	5日間	25時間	2名	3名	26名
2016年度	臨床応用コース	5日間	25時間	4名	1名	26名
	臨床基礎コース	5日間	25時間	2名	3名	26名
2017年度	1年コースA	6日間	30時間	4名	2名	26名
	1年コースB	6日間	30時間	5名	1名	26名
2018年度	1年コースA	5日間	25時間	3名	3名	26名
	1年コースB	5日間	25時間	4名	2名	26名
2019年度	1年コース	7日間	35時間	4名	2名	26名
2020年度	1年コース	新型コロナウイルス感染症により中止				

けでなく、臨床の知見を言語化して書籍として形に残す活動も行ってきた。

【開催概要】

2019年度「臨床ブラッシュアップコース」は生涯学習センターのホームページでの募集を行い、また理学療法学科の臨床実習施設に対しても郵送案内を行い、抽選により29名の受講生(理学療法士)で開催された。日程は全7回(5/25, 6/22, 7/6, 8/24, 9/28, 10/26, 12/14)で実施され、内容は身体の各部位(肩、胸郭、股、膝、足)、皮膚、バランスの分野を専門とする講師が担当して開催された。なお、本コースは日本理学療法士協会認定・専門理学療法制度ポイント認定講習会である。

【アンケート調査方法】

講習会は10時から16時(昼休憩1時間)の1日5時間で開催され、講習会終了後Google Formを利用したアンケート調査を実施した。回答は任意とし、毎回の講習会終了後にアンケートを実施するにあたり協力要請を行った。アンケート調査の内容は、受講生に関する3項目(本学の卒業生かどうか、臨床経験年数、本学の実習施設かどうか)に加え、講習会に関する10項目(①研修の理解度、②資料の内容、③研修日数・時間、④講師の話し方、⑤研修内容、⑥研修の総合的評価、⑦受講生の能力の向上、⑧受講生のやる気の向上、⑨受講生の臨床での活用、⑩自由記入欄)とした。アンケート調査内容のうち①～⑨の9項目については、「非常に満足」・「満足」・「普通」・「不満」・「非常に不満」の5段階項目で実施した(図2)。

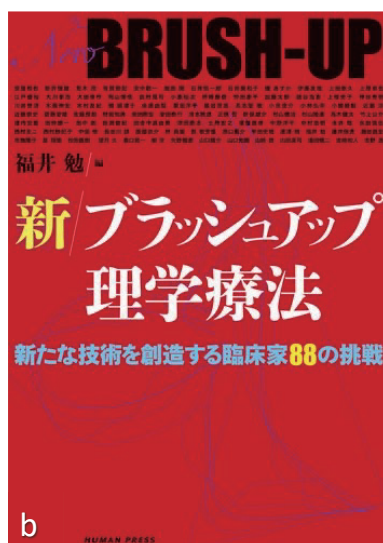
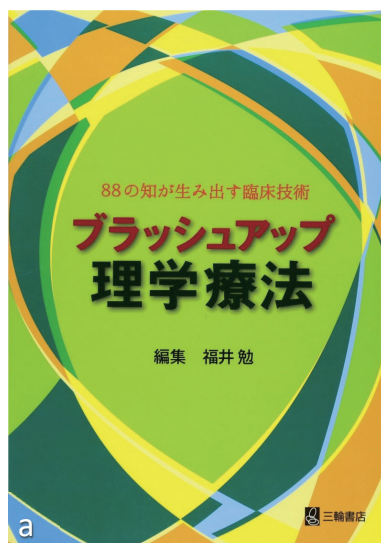


図1 臨床ブラッシュアップコースの書籍



図2 Google Form によるアンケート調査

【結果】

受講生に関する3項目についての2019年度アンケート調査の結果を以下に示す。

1. 36.8%を卒業生が占める結果となった。
2. 臨床経験年数については1～5年目の受講生が94.7%を占め、6～10年目は5.3%、10年目以上は0%であった。
3. 実習施設かどうかについては68.4%の受講生が実習施設対象の理学療法士であった。講習会に関する①～⑨の9項目についてのアンケート調査の結果を以下に示す(表2, 図3)。
4. 全7回の総合評価として、各項目ともに「非常に満足」・「満足」と回答した割合が80%以上を占める結果となった。
5. 全7回の総合評価として、各項目ともに「不満」・「非常に不満」と回答した割合は10%以下であった。

講習会に関する⑩(自由記入欄)のアンケート調査の結果として、一部抜粋した回答を表3に示す。意見として、「実技が多く分かりやすかった」「臨床に活かせる内容で良かった」という内容が多くを占めていた。一方で、「時間が足りなかった」「もう少し勉強会の時間が長くと良かった」という回答もみられた。

【考察】

2019年度「臨床ブラッシュアップコース」アンケート調査のうち、受講生に関する3項目の結果より、卒業生は36.8%を占め、比較的経験年数の浅い受講生が多い年度であった。卒後教育を見据えた大学連携講座として、その役割は果たしていると考えられる。また、実習施設の受講生が68.4%を占め、卒業生ではない受講生も、大学との繋がりをより強めることができる内容になっていると考えられる。

2019年度「臨床ブラッシュアップコース」アンケート

表2 アンケート調査の回答数

内容	非常に満足	満足	普通	不満	非常に不満
①研修の理解度	54	68	8	2	0
②資料の内容	56	64	10	2	0
③研修日数・時間	37	67	14	11	3
④講師の話し方	70	50	11	1	0
⑤研修内容	63	61	6	2	0
⑥研修の総合的評価	62	62	6	2	0
⑦能力の向上	40	74	16	2	0
⑧やる気の向上	50	72	8	2	0
⑨臨床での活用	37	63	29	3	0

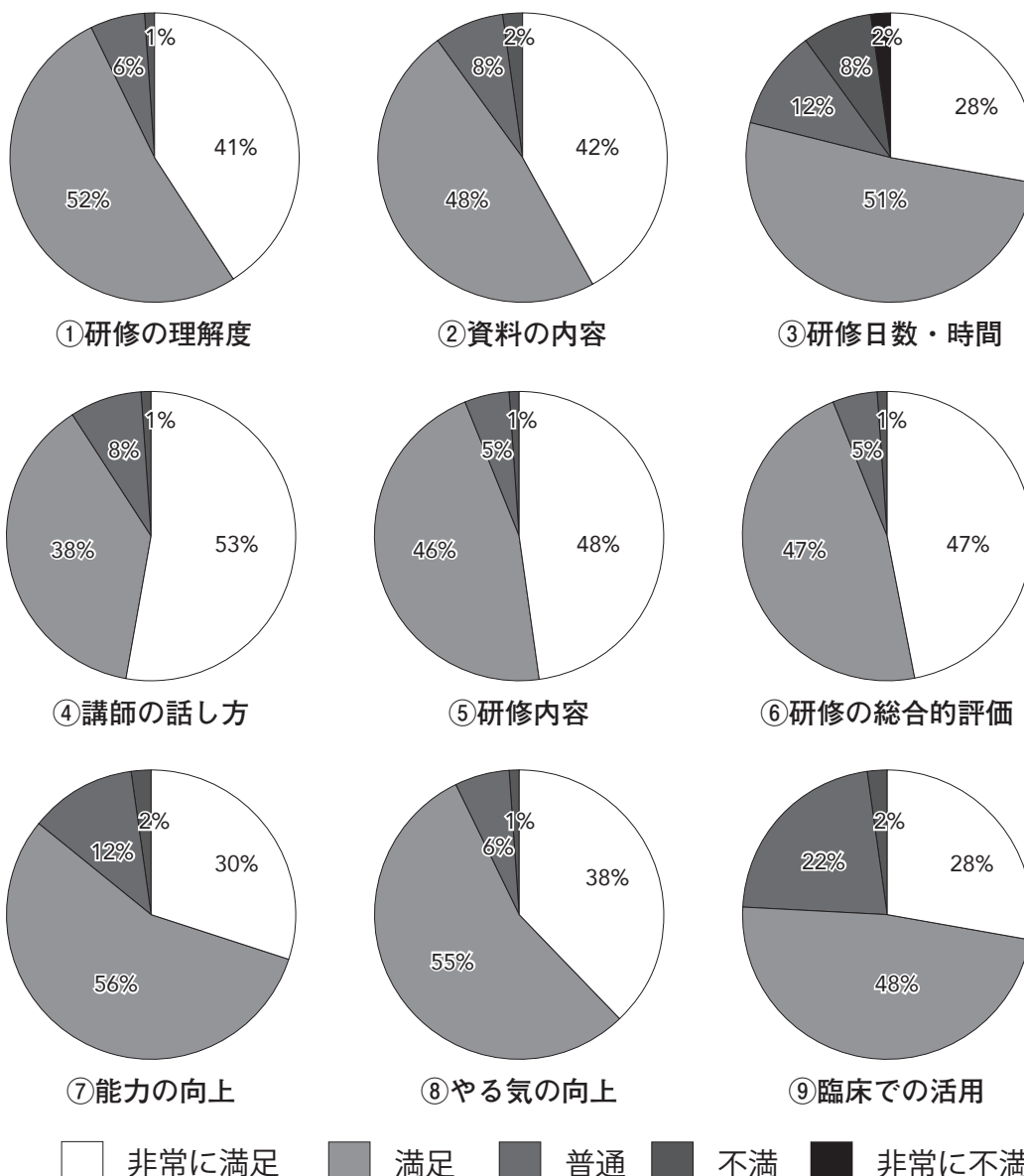


図3 アンケート調査 (9項目) の内訳 (%)

調査のうち、講習会に関する10項目の結果より、総合評価として「非常に満足」・「満足」の回答が80%を超えていることから、概ね満足度の高い講習会が開催できたと考えられる。しかし、より満足度の高いブラッシュアップコースを企画する必要がある。「満足」以上で100%に満たなかった理由として、1コースのみの開催で選択肢がなく、講師陣の得意分野と受講生の興味のある分野のミスマッチがあったためと推測される。2019年度は「臨床で多角的に見ることができる人材を育てるコース」としてのコンセプトから、様々な分野で活躍される講師をお招きした。幅広い知識・技術を習得できるメリットがある一方で、1日の講習会で専門分野の講演が凝縮して展開されることから、興味のある分野であると感じた受講生ほど、講習時間を長く設定してほしいという意見が多かった。現在の理学

表3 自由記入欄の回答 (一部抜粋)

自由記入欄
実技が多く分かりやすかった
臨床に活かせる内容でよかった
触診が多く変化が理解しやすかった
治療効果がすぐにわかり、臨床応用がすぐに試せそうなところが良かった
治療に活かそうな点が多くあった
実技を交えていく中で治療アプローチを教えていただいたのはすごく面白かった
実技で効果を実感できた
臨床で活かそうな点がいくつもあった
実技が多く指導が丁寧でよかった
時間が足りなかった
もう少し勉強会の時間が長くと良かった
内容が濃く、時間が短く感じたのでもう少し時間を長くしてほしい
講義時間がもう少し長いと嬉しかった

療法では専門性を高めることも重要であることから、今後、受講生の興味・目的との差を減らしていくために、より専門性を明確にした上での複数のコースから選択できるよう開催を検討していくことが必要であると考えます。

【課題と展望】

理学療法学科の卒後教育の一環として、2006年度から15年間「臨床ブラッシュアップコース」を開催し、特徴のあるコースを企画・運営してきた。参加者は延べ600人以上となり、過去の受講生はその後、様々な分野で活躍している。

今後の課題は開催時期と実施方法が挙げられる。当初、開催時期は土曜日・日曜日の2日間で年間コースを開催していた。しかし近年は回復期リハビリテーション病棟の365日体制などで2日間の開催では受講することが難しいなどの意見があり、2015年度以降は土曜日もしくは日曜日の1日で開催した。2019年度は土曜日のみで年間コースのみを開催した。今後もこのように週末のどちらか1日を講習会の日として設定し、複数の年間コースを企画し、講師をはじめ受講者の方の臨床業務を調整しやすくしたいと考えている。

また、2019年度までの「臨床ブラッシュアップコース」では、対面で講習会を行うことができたが、2020年度以降はCOVID-19の影響により対面で講習会を開催していない。臨床ブラッシュアップコースは理学療法学科の卒後教育の一環であることから、このような状況下でも継続して開催できる方法を検討する必要がある。開催方法の1つとしてWeb会議ツールを使用し、講義を行う方法が挙げられる。Web会議ツールの利点としては、感染対策に有用な方法であり、また動画を残すこともでき、臨床で確認した後に復習することが可能である。本学学部においてもオンライン授業が展開されている^{3,4)}が、実技を行うことができない欠点が挙げられる。理学療法は知識に基づいた技術が重要になるため、オンラインで行う場合は何らかの方法で技術習得の補填をすることも必要になると考えられる。

COVID-19の影響により、多くの医療系大学で実施されるべき臨床実習が大幅に制限された。このような状況下でも医療従事者を目指す学生にとっては病院などでの臨床実習は不可欠である。解決策の1つとして、仮想現実(virtual reality: VR)技術を用いたフィードバック動画教材によるVR臨床実習などが検討されている^{5,7)}。こうした技術を活用することで、実際に講師の先生方の動きなどが体験でき、従来の対面による実技に近いものが得られるとされている

8)。一方で、受講生の多くは技術習得を目的に参加希望する人が多い。参加者数を制限した上で対面での講義・実技を実施する事も開催方法の1つとして模索していきたい。コロナ禍で導入されてきている新しい教育手法を取り入れつつ、受講生にとってより満足度の高い講習会が企画・運営できるよう、今後も取り組んでいきたい。

【おわりに】

今年、本学の生涯学習センターは開設25周年を迎える。「臨床ブラッシュアップコース」は保健医療技術学部理学療法学科開設以来15年間、形を変えながら継続して開催されてきた。アンケート調査の結果から、この講習会により、実習施設との関係構築や卒業生の大学に対する帰属意識が強まり、若い理学療法士のモチベーションの向上などに影響を及ぼすことができたと考える。今後も生涯学習センター協力のもと、その時代に沿った新しいニーズに対応した形で講習会を継続することが、さらなる本学の発展にも必要であると考えます。

【引用文献】

- 1) 福井勉(編):ブラッシュアップ理学療法—88の知が生み出す臨床技術. 三輪書店, 2012.
- 2) 福井勉(編):新ブラッシュアップ理学療法—新たな技術を創造する臨床家88の挑戦. ヒューマン・プレス, 2017.
- 3) 鈴木里砂、小松香爾. Covid-19状況下での各分野でのチャレンジ(1)大学教育での工夫. バイオメカニズム学会誌, 2021; 45(1): 54-59.
- 4) 東城俊太郎: Covid-19状況下での各分野でのチャレンジ(2)大学教育での工夫. バイオメカニズム学会誌, 2021; 45(2): 107-111.
- 5) 織田順、三苦博. 「VR/AR 技術を用いたフィードバック動画教材」による「能動型見学実習」の試み. 医学教育. 2021; 52(3): 253-258.
- 6) 岡本健太郎、荻野恵、伊藤佳史、松寺翔太郎. VR (Virtual Reality) 技術の医学教育への有効性. 日本小児放射線学会雑誌. 2021; 37(1): 68-74.
- 7) 中尾睦宏. AI, ICT, VR を活用する未来に向けて. バイオフィードバック研究. 2021; 48(1): 11-15.
- 8) 藤原慶二. ソーシャルワーク教育におけるVR活用の展望と課題—演習系科目への導入—. 関西福祉大学研究紀要, 2017; 20: 9-14.

Transition of the “Clinical Brush up Course” as Postgraduate Education: 15 year Efforts in the Department of Physical Therapy

Yoko Fuse¹, Toshihiko Sato¹, Shun Okamura¹, Sakiko Nishimura², Yasuhisa Ueda¹, Tsutomu Fukui^{1,2}

¹Department of Physical Therapy, Faculty of Health Science Technology, Bunkyo Gakuin University

²Bunkyo Sports Management Center

Abstract

Since 2006, the "Clinical Brush-up Course" has been planned in the Department of Physical Therapy and has continued for 15 years while changing the implementation method. We conducted a questionnaire survey on students/courses for the 2019 course. From the questionnaire survey results on the students, it was considered that it is a place that can play a role as a university-linked course as postgraduate education and have a connection between the clinical training facility and the university. According to the questionnaire survey results on the seminar, it was considered that the seminar was generally highly satisfying. However, in 2019, lectures in one specialized field were condensed and developed in one day, so some students commented that the attendance was short. Therefore, it is necessary to consider the implementation method after clarifying the event's purpose. In addition, face-to-face seminars have not been held since 2020. Thus, in the future, we need to consider a more satisfying method of conducting the seminar while incorporating the new educational method introduced in COVID-19.

Key words ——— Clinical brush-up course, physical therapy department, postgraduate education

Bunkyo Journal of Health Science Technology vol.14: 13-18